

伊方町

第3次

総合計画

概要版

長く 永く

幸せ感じる
伊方町



令和8年3月
伊方町



1. はじめに

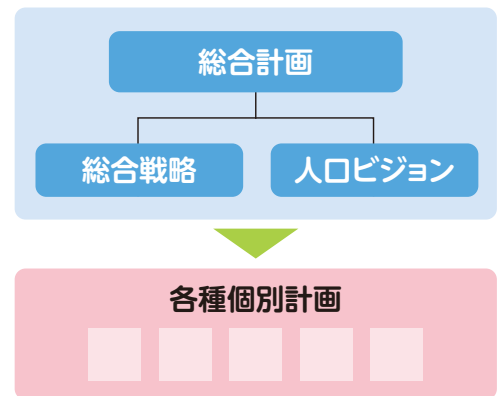
(1) 計画策定の趣旨

本町は、「よるこびの風薫るまち伊方～みんなが選ぶ佐田岬、しあわせ感じる佐田岬～」の将来像の実現を目指し、平成 28（2016）年度より最上位計画である「伊方町第 2 次総合計画」を踏まえ、まちづくりを推進してきました。また、歯止めのかからない人口減少問題意識を共有し、町全体が一体となって、人口減少への課題に真摯に向き合いながら、「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取組も推進してきました。

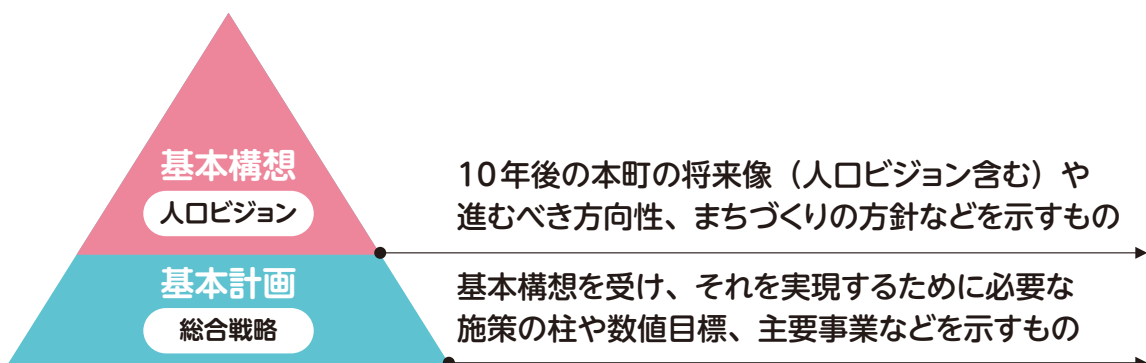
目まぐるしく変化する社会課題を解決し、住民とともに同じ方向性をもってまちづくりを進め、また伊方町が住民にとって暮らしやすい町、幸福度の高い町であり続けるため、「伊方町第 3 次総合計画」を策定します。なお、この「第 3 次総合計画」は、「第 3 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を内包した計画とし、人口減少抑制策とともに人口減少適応策にも対応した計画とします。

(2) 計画の位置づけ・構成

本計画は、町の最上位計画として位置づけられ、まちづくりの方針を示すとともに、町のあらゆる個別計画の方向性を定めた計画となっています。総合戦略は、人口減少抑制策や人口減少及び適応策をとりまとめた人口政策の計画となっています。人口ビジョンは、まちの目指す将来人口を示した計画となっています。本計画はこれらを一体的に策定した計画です。



本計画は「基本構想」及び「基本計画」で構成されます。また、「総合戦略」は町の人口戦略プロジェクトとして位置づけていきます。



計画期間については、基本構想を令和 8（2026）年から令和 17（2035）年までの 10 年間とし、基本計画は前期と後期それぞれ 5 年間とします。前期から後期への移行の際に見直しを実施します。

また第 3 期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5 年計画とします。

2. 目指すまちの姿

(1) 将来像

次の将来像を本町が描く 10 年後の姿として設定し、まちづくりを推進していきます。

長く 永く 幸せ感じる 伊方町

(2) 将来像に込める思い

心地よい潮風が吹き抜ける伊方町。

「細く 長い」特徴的な地形をもつ、佐田岬半島に位置する町。

宇和海と瀬戸内海に挟まれるこの町は、住民だけでなく、町を訪れる人にとって、海と大地を感じることができる魅力の宝庫です。

町には常に新しい風が吹き続け、この地に魅了された人々が活躍し、時代の先端技術も取り入れる体制が整い、まちの暮らしは豊かになっています。ここでの暮らしは、都会のような喧騒がなく、日々の生活に確かな喜びを感じさせてくれます。

佐田岬半島とともに、今日まで長い時間をかけて、受け継がれてきた知恵と、何より温かい住民の想いを活かし、心穏やかに長く永く幸せを感じることができるまちを目指していきます。

3. 人口ビジョン（目標人口）

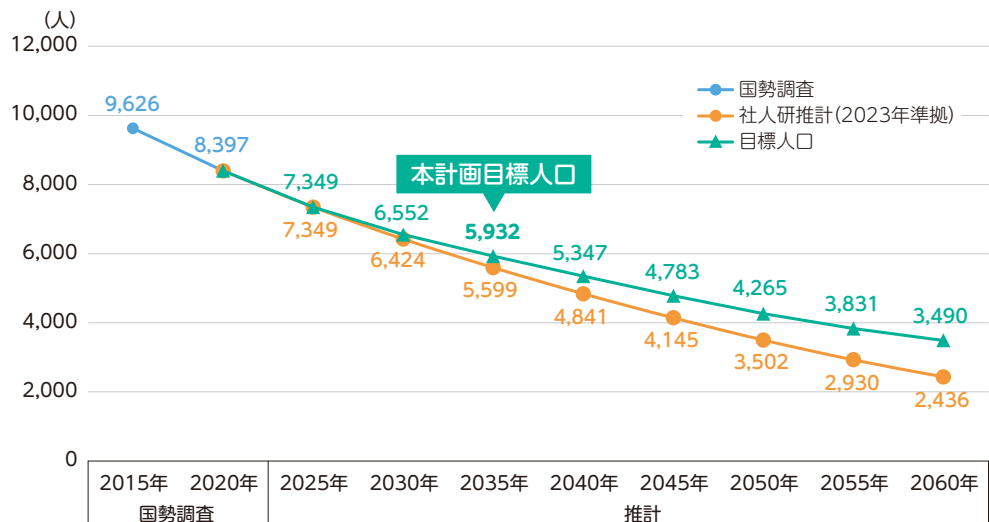
目標人口達成の条件

2035 年までに合計特殊出生率 2.07 及び社会移動均衡

【2035年目標人口】

6,000人

伊方町の目標人口



※目標人口は、社人研推計をベースに、条件を踏まえコーホート要因法により推計

4. 基本目標

第3次総合計画では、7本の基本目標を設定し、次の方針に基づいた施策を推進していきます。

(1) いのちと暮らしを育む安心基盤（防災・減災）

町の最重要課題の一つである防災力を高め、消防、防犯、交通安全の各分野を有機的に連携させていきます。統合的かつ包括的な安全対策を強力に推進し、緊急時への対応力に加え、日々の生活における安心を確立することを目指します。

(2) 心をつかむ住まいの構築（移住・定住）

住民一人ひとりが愛着と誇りを持てる持続可能な住環境の充実を図ります。また、地域に新たな活力と魅力を生み出せるよう、空き家整備を含む移住できる環境の充実を図り、未来を共に育む環境づくりを目指します。

(3) 健やかに温もりで支え合う地域社会（保健・医療・福祉）

住民一人ひとりが、年齢や障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で自分らしく、安心して暮らし続けることができるよう、支え合いと共生の地域社会の実現を目指します。

(4) 快適な暮らしと活力を生む社会基盤（社会基盤）

住民が快適に暮らせる住環境を確保し、持続的に地域の活力を生む社会基盤を整備・維持します。まちの自然環境との共生を図りながら、豊かな生活環境の充実を図る地域社会の実現を目指します。

(5) まちを彩る地域経済の創造（産業・観光）

地域の豊かな資源を最大限に活用し、持続可能で強靱な地域経済基盤による、住民の生活の質の向上を図ります。また、新たな価値を創造することで、地域ブランドを確立し、多様な「彩り」と「活気」をもたらす魅力あふれる社会の実現を目指します。

(6) 人と知（地）がつながる学びの場（学び・交流）

住民一人ひとりが心豊かな生活を送り、自己の可能性を最大限に引き出せるよう支援します。また、ふるさと愛の醸成とともに社会課題を解決できる人材育成に努め、地域とともに生きる学校づくりを目指します。

(7) しなやかに未来をつくる共創と連携（行財政・協働連携）

町を取り巻く社会情勢の変化にしなやかに対応しながら、住民、多様な団体、地域内外の機関との持続可能な地域社会を創造します。開かれた行政運営のもと、共に地域課題を解決し、新たな価値を生み出せる未来づくり、豊かな地域づくりを目指します。

5. 基本計画施策体系

次の施策体系をもとに、各基本施策の目指す姿の実現に向けて、施策の展開を図っていきます。

基本目標 1 いのちと暮らしを育む安心の基盤（防災・減災）

基本施策	目指す姿
1 災害への備えの充実	災害に強い、安心安全なまち
2 迅速で安心できる消防体制	各地区の地域力で守る姿勢が確立したまち
3 防犯活動と交通安全の充実	住民が安全かつ安心して暮らし続けられる地域社会

基本目標 2 心をつかむ住まいの構築（移住・定住）

基本施策	目指す姿
4 暮らしやすい住環境の確保	日々の暮らしに癒しと快適さを確保できる生活基盤が整うまち
5 住まいの循環と新たな人の流れづくり	住みたいところに住める。人が集い、つながり、未来を創るまち

基本目標 3 健やかに温もりで支え合う地域社会（保健・医療・福祉）

基本施策	目指す姿
6 健康で暮らせる環境づくり	健康で生き生きと暮らせる日常を地域の絆と協働の力で支えるまち
7 安心できる医療体制の整備	町民が安心できる持続可能な医療体制が確保できるまち
8 子育て世代が安心できる環境整備	誰もが安心して子育てができるまち
9 高齢者福祉と生活支援の充実	高齢者が社会の担い手として活躍しながら、多世代が交流し、誰もが安心していきいきと暮らせる生涯現役のまち
10 障がい者の自立と社会参加の支援	ともにづくり、つながり、尊重し合えるまち
11 支え合う地域福祉の推進	保健、医療、福祉を推進する基盤として、一人ひとりの心掛け（自助）、町民同士の支え合い（互助）、社会保障制度やサービス（共助）、公的な制度やサービス（公助）という重層的な地域福祉社会が形成されているまち

基本目標 4 快適な暮らしと活力を生む社会基盤（社会基盤）

基本施策	目指す姿
12 自然環境の保全と共生	豊かで美しい環境で暮らす、自然を楽しむまち
13 便利で安全な道路・交通環境の整備	誰もが安心して移動でき、地域の安全・快適な暮らしと経済活動を支える、便利でやさしい交通基盤を備えたまち
14 水道インフラの充実と適正管理	安全・強靱・持続のインフラ整備が実現しているまち
15 港湾・漁港整備の推進	安全で快適な生活・地域経済を支える社会インフラの実現

基本目標 5 まちを彩る地域経済の創造（産業・観光）

基本施策	目指す姿
16 食と資源を支える産業の強化	農水産業が持続的に発展するまち
17 地域商工業の活性化	地域資源を活かした強靱で持続可能な基盤を築き、新たな価値を創出して彩りと活気ある魅力的なまち
18 観光の魅力向上と誘客促進	豊かな地域資源を最大限に活用した持続可能な観光のまち

基本目標 6 人と知（地）がつながる学びの場（学び・交流）

基本施策	目指す姿
19 学びの質の向上と教育環境の充実	質の高い学習環境と、ふるさと愛を育み、地域と協働する教育環境が整っているまち
20 誰もが学び続けられる環境づくり	学びと健康による豊かな人づくりを実現する、活力ある互助・共助のまち
21 伝統文化の振興と次世代への継承	佐田岬の自然・歴史・民俗文化の継承保存、そして新たな文化を創造するまち
22 地域間・国際交流の活性化	地域間交流と国際体験により、心身ともに充実した、世界に羽ばたく多様な人材を育てているまち

基本目標 7 しなやかに未来をつくる共創と連携（行財政・協働連携）

基本施策	目指す姿
23 地域コミュニティの活性化	つながりを大切にするまち
24 人権尊重と男女共同参画の推進	一人ひとりが尊重され、信頼と協働で創る全員参加のまち
25 持続可能な行政経営と DX 推進	人・企業・デジタルがつむぐ、財政運営の健全化を目指すまち
26 情報発信力・広報力の向上	声が届く、力が動くまち
27 広域連携の推進と強化	広域連携により、町民が安心して暮らせる生活環境を整備できるまち

まちの人口戦略プロジェクトとして推進

第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略



6. 総合戦略施策体系

次の施策体系をもとに、人口減少抑制策や人口減少適応策を推進します。

基本目標

1

選ばれる伊方

基本施策 1-1 愛をつむぐライフサポートプロジェクト

基本施策 1-2 子育て安心サポートプロジェクト

基本施策 1-3 “お帰り” “ようこそ” プロジェクト

基本施策 1-4 めぐるバス、快適生活プロジェクト

基本施策 1-5 地域力アップ！プロジェクト

数値目標
2030年（R12）

指標	目標値（R12）
0～4歳人口	147人
移住・就業体験者数	180人

基本目標

2

価値を生み出す伊方

基本施策 2-1 海と山プレミアムプロジェクト

基本施策 2-2 農業・漁業働くチカラプロジェクト

基本施策 2-3 地域の未来を創る若者・チャレンジプロジェクト

基本施策 2-4 町内への経済効果と“伊方ファン”増加につなげる観光・交流活性化プロジェクト

数値目標
2030年（R12）

指標	目標値（R12）
町民所得合計（農林水産業）	1,100百万円
起業件数、誘致企業数	23件
観光入込客数	600,000人／年間

基本目標

3

持続可能な伊方

基本施策 3-1 元気安心プロジェクト

数値目標
2030年（R12）

指標	目標値（R12）
住み続けたいと回答した割合	60%



Ikata Town



令和 8 年 3 月

発行：愛媛県伊方町

編集：伊方町総合政策課

〒 796-0301 愛媛県西宇和郡伊方町湊浦 1993 番地 1

TEL：0894-38-0211（代表）

FAX：0894-38-1373

H P： <https://www.town.ikata.ehime.jp/>

